

遺児の進学支える「あしなが高校奨学金」2026年度予約採用

申請過去最多1819人 物価高で支援ニーズ3年連続高止まり

採用187人増も、申請者の35%には奨学金届かず

4月に全国であしなが学生募金「一人でも多くの困窮する後輩遺児たちに奨学金を」

遺児や親に障がいがある子どもを支援する一般財団法人あしなが育英会(本部:東京都千代田区、会長:村田治)は、「あしなが高校奨学金」の2026年度予約採用(中学3年生対象)をおこないました。申請者は過去最多の1819人で、このうち1187人を採用しました。前年度から187人採用者を増やせましたが、申請者の34.7%にあたる632人は採用できませんでした。

こうした状況を受け、4月18日から全国で始まるあしなが学生募金では、学生たちが「一人でも多くの遺児たちに奨学金を届けよう」と、支援を呼びかけます。

物価高で苦しい生活が続く遺児家庭

本会が2025年におこなった調査では、高校奨学生世帯の困窮が浮き彫りになりました。平均勤労収入は、わずか140.9万円。52.2%が過去1年間に「お金が足りず、食料を買えなかった」経験をしていました(詳細次頁)。

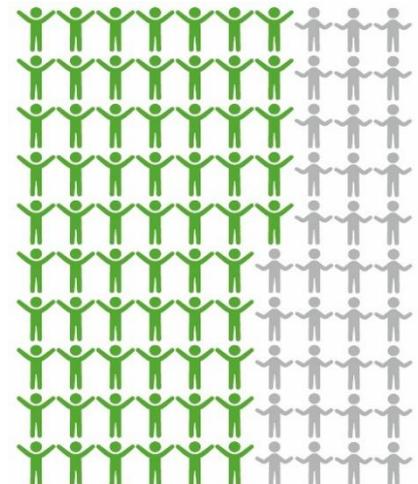
昨今の物価高は、奨学金ニーズの高止まりに繋がっています。加えて、イラン情勢の緊迫化に伴う原油価格高騰が、遺児家庭の生活をさらに苦しめることも懸念されます。

申請者は3年連続高止まり

高校奨学金予約採用の申請数は、2023年度が1328人だったのに対し、24年度は1800人、25年度は1720人、そして26年度は1819人と、過去最多水準が3年間続いています。今回の予約採用で不採用となった34.7%の申請者も苦しい生活状況にあり、奨学金が必要であることは変わりません。

一人でも多くに奨学金を届けるために

あしなが大学奨学生を中心に組織されるあしなが学生募金事務局(事務局長:金井優佳^{かない}＝日本女子大学3年)は、4月18日から「第111回あしなが学生募金」を、全国約120か所で開催。自らも奨学金を受けて進学できた遺児学生たちが、後輩遺児たちのために声を上げます。各地での街頭募金に先立ち、4月11日に新宿でオープニングセレモニーを開催します。一人でも多くに奨学金を届けるため、遺児の現状と学生募金をご取材くださいますよう、よろしくお願いいたします。



35%には支援が届いていない採用者を増やすことが、学生募金の目標だ

— 第111回あしなが学生募金 実施要項 —

<主催> あしなが学生募金事務局 <協力> 一般財団法人あしなが育英会

<募金使途> 全額を日本国内の病気・災害・自死遺児と親に障がいがある子どもの奨学金として、あしなが育英会に寄付

<日程> 2026年4月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日) ※一部日程のみ実施する場所もあり

<場所> 全国47都道府県約120か所の主要駅頭・街頭(学生募金ウェブサイト=右QR=に掲載)

<オープニングセレモニー> 翌週から始まる街頭募金の開始を、学生約30人がPR。実際に募金も呼びかける。4月11日(土)11:30~12:00、JR新宿駅南口改札前歩道で実施



本件に関する問合せ: あしなが育英会広報: 島田(携帯050-5236-9506 メールpress@ashinaga.org)

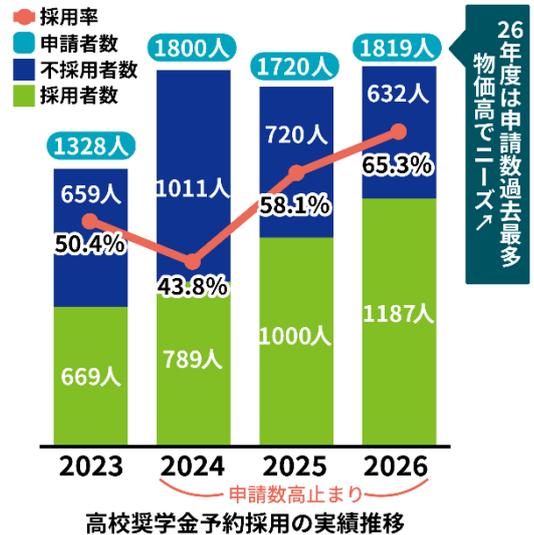
あしなが学生募金事務局 事務局長 金井優佳(日本女子大学3年)

私は3歳で父が病気となり、障がいのある親をもつ家庭で育ちました。高校からあしなが奨学金に支えられ、父を亡くした後も大学進学を夢をあきらめず勉強を続けることができました。親を亡くした、または障がいのある家庭の子どもたちが、環境に左右されず進学の未来をつかめる社会を願っています。温かいご支援をお願いいたします。



あしなが高校奨学金について

- ・病気・災害・自死遺児(交通事故以外)で親を亡くした、または親に障がいがある高校生・高専生が対象
 - ・月額3万円を卒業まで給付(返還不要)
 - ・現在4,155人に交付中(2026年3月現在)
 - ・1988年の制度創設以来、45,176人に交付(2026年3月現在)
 - ・採用は、中学3年時に申請する「予約採用」と、高校在学中(学年問わず)に申請する「在学採用」がある
- ※2026年度の在学採用は未実施であるため、本リリースでは実施済みの予約採用の採用状況を取り上げています



最新調査あしなが高校奨学生調査(詳細は右下QRからご覧ください)

東京都立大学の阿部彩教授の協力のもと、2025年8～9月に実施し、同年12月に発表。あしなが高校奨学生とその保護者が対象で、計4421人が回答した。

奨学生世帯の貧困率は53.5%にのぼり、高校奨学生がアルバイトの負担を強いられていることや、友人との交流や部活動など、高校生にとっての「当たり前」の生活が奪われている実態が明らかになった。今回の街頭募金で学生たちは、支援を募るとともに、本調査でわかった現状を社会に発信する。



あしなが学生募金とは

あしなが育英会の大学奨学生を中心に組織される学生団体「あしなが学生募金事務局」が主催。毎年4月と10月に全国で遺児の奨学金を募る街頭募金を実施している。当初は交通遺児を支援していたが、時代とともに支援対象を広げ、現在は病気・災害・自死遺児(交通遺児以外)と親に障がいがある子どもを支援している。

1970年の第1回募金以来、123億円のご寄付を集め、数多くの遺児たちの「進学の夢」を後押ししてきた。

【本部】東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館本館4階

【事務局長】金井 優佳(日本女子大学3年)

【実績報告】 前回第110回募金(街頭募金は2025年10月実施。振込等によるご寄付は25年8月～26年1月に受付)では、1億115万1563円のご寄付を頂戴しました。

【街頭募金以外でのご寄付】

郵便振替口座 00140-4-187062 「あしなが学生募金事務局」

<お知らせ> 2016～2025年は、ご寄付の2分の1をアフリカ遺児支援に充てていましたが、2026年度からは全額を日本の遺児支援に充てます



昨年10月の第110回募金のオープニングセレモニー